

中学校第 2 学年 国語科学習指導案

日 時 平成 28 年 10 月 18 日 (火)
指導者 教育センター所員 岩瀬 弘憲

単元名 『哲学的思考のルーティンを使って、「考えること」を楽しもう』

教材名 「哲学的思考のすすめ」野矢茂樹（東京書籍 中学校 2 年）

1 単元について

(1) 生徒観

説明・論説文を読むことについて生徒は、2 年生になって説明・論説文の基本構成や問題提起文を捉えることを通して筆者の論の進め方を読み取ることが学んでいる。

「食の世界遺産 一鯉節」の学習においては、文中に現れる筆者の問題提起に注目して、筆者の論の展開の仕方をつかみ、本文を要約している。このことから、筆者の論証過程を部分と全体の関係において捉えることは多くの生徒ができるようになってきていると考えられる。

対話的な学習の進め方については、4 人を基本とした集団で学ぶことに 1 年生のころから取り組んでいる。国語以外の教科でも共通の協働的な学習を取り入れていることから、小集団で円滑に話し合いを進めることができると考えられる。

(2) 単元観

教材「哲学的思考のすすめ」は、恥ずかしいという感情の正体を、筆者の示す哲学的な思考の方法を用いて段階的に例証していく論説文である。読者に語りかけるような文体で、哲学的なものの考え方が解説され、深くものを考えることの魅力と必要性を説く文章である。

恥ずかしいという感情について思考を深めることが哲学的思考のモデルとして示され、「一歩考えが進んだ」というフレーズで論が展開し、読者を哲学的思考に誘う表現の工夫がなされている。

考えを進めるに当たっては、多くの具体例を示し、帰納的に結論を導き出している。よって本単元では、具体例を手掛かりにして筆者の哲学的思考の方法を読み取り、その思考の方法を用いて生徒が哲学的議論を行う。「恥ずかしい」とは、どういうことかという事例を生徒が筆者の思考方法を用いて議論することで、筆者の論証を吟味する活動にもつなげる。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、「筆者の『恥ずかしい』論について自分の考えをもち、筆者の哲学的な思考の方法を用いて議論することで、考えを深めよう。」を学習課題とする。生徒は、筆者が提案する哲学的な思考の方法を本文から抽出したうえで、図に整理し、その思考方法に沿って恥ずかしいという感情について問い直す言語活動を行う。図は、「こども哲学」で用いられるディスカッションボードを意識して作成し、生徒が、実際に議論するとき、自分が何について話をしているのか認識できるようにする。

教材は、生徒にとって身近な具体例が多く、一見、理解しやすそうな文章である。しかし、具体から抽象への転換が急で生徒にとっては理解しづらいと考える。そこで、恥ずかしい状況の具体例を生徒に出させ筆者の論に重ねることで、理解と主体的な学びを促したい。また「自分は同じ状況になっても恥ずかしくない」というような個人差による疑問も生じると考えられるが、その疑問も筆者の論証を吟味するための材料として積極的に活用したい。

最終的な言語活動の哲学的議論の場面では、筆者の論証のモデルに沿って思考することで、筆者の推奨する「哲学的思考」を追体験し、理解を深め、考えることの面白さに気付かせたい。

2 単元の目標

- (1) 例示の効果を考え、内容の理解に役立てることができる。 (読むことイ)
- (2) 文章に表れている考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつことができる。 (読むことエ)

3 単元の言語活動

- 筆者の帰納的な思考法を用いて哲学的問いに対して結論を導き出す。
- 結論に対して反例や比較を通してより深い結論を考える。

4 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
① 哲学的思考に興味をもち、自ら課題を決めようとしている。 ② 思考を深めるために、積極的に他者と関わろうとしている。	① 具体例を手掛かりにして、筆者の提案する思考方法と、その流れを読み取っている。 ② 筆者の哲学的思考の結果について、自分の考えをもっている。	① 思考を表す抽象的な語句の意味を、具体例を手掛かりに推測し理解している。

5 指導と評価の計画（全6時間）

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	1 「こども哲学」に関する映像を視聴し、感想を発表する。 2 教材を読み、筆者の主張を捉える。 3 学習課題「筆者の『恥ずかしい』論について自分の考えをもち、筆者の哲学的な思考の方法を用いて議論することで、考えを深めよう。」を設定する。 4 学習計画を立て、単元の見通しをもつ。	○哲学という学問やものごとを深く考えることの価値について話し、学習への動機付けを行う。	〔関・意・態①〕考えることに興味をもち、学習の見通しをもとうとしている。 【学習計画表】
	2	5 具体例をマトリックスに整理することを通して、文章全体の論の展開をつかむ。	○筆者の恥ずかしいことに対して自分の考えを付加することによって主体的に読む視点を加える。	〔読①〕筆者の論証を正しく捉えている。 【ワークシート1 マトリックス】
二	3	6 筆者の述べる「哲学的思考」を部分に分けて、捉える。 ① クラゲチャートの使い方を、7・8段落を用いてモデル学習する。 ② 9-11段落グループと12-14段落グループに分かれて、それぞれのまとまりをクラゲチャートに整理する。 ③ 2つのグループがそれぞれにまとめたものを交流し、前半部分をまとめる。	○単元のゴールが討議であることを再確認し、議論の内容を深めるツールとして哲学的思考法を用いることを意識させる。 ○具体から抽象化する帰納法の考え方が理解できるように、教科書以外からも具体と抽象の例を用いてモデル学習を行う。	〔読①〕哲学的思考を段階的に捉え、その構造を図解している。 【ワークシート2 クラゲチャート】 〔言〕「一般化」や「反例」等の語句を用いて会話している。 【観察】
	4 (本時) ・ 5	④前半部分のまとめ方を用いて、後半部分をまとめる。 7 筆者の哲学的思考の方法を整理する。 8 「恥ずかしい」の具体例を座標軸で整理することで筆者の論理を再確認する。 9 「恥ずかしい」という感情について、グループで「哲学する中学生の会」を開き、ディスカッションボードを用いて議論する。 10 議論した内容を、ディスカッションボードを手掛かりにして、メモにまとめる。	○ディスカッションボードを用いて、思考を可視化する。(ディスカッションボードは、生徒が整理した哲学的思考法を基に作成する。) ○話し合いの状況に応じて、議論を活性化したり、深めたりできるような情報を提示する。	〔読②〕「劣等感(優越感)」「共感」「人が見ている」という観点で、具体例を正しく分析し、考えている。 【ワークシート3 座標軸】 〔読①〕筆者の思考法を、話を進めることに役立てている。 【ワークシート3 座標軸】 〔関・意・態②〕付箋に要旨を書き込み、積極的に発言している。 【観察】
三	6	11 メモをもとにして、「恥ずかしい」という感情についての哲学的思考をまとめる。 12 単元全体を振り返り、この単元で身に付いた言葉の力についてまとめる。	○具体例を付け加えた活動を振り返らせながら、筆者の思考法について考えさせる。	〔読②〕筆者の思考法について検討し、評価している。 【ワークシート4 まとめ原稿】

6 本時の指導計画（4／6時）

(1) 目標

- 具体例を用いて説明された筆者の哲学的思考の方法と流れを理解することができる。
- 自分たちの具体例と筆者の具体例と重ね、筆者の論証を吟味し自分の考えをもつことができる。

